

第3 3回全国豊かな海づくり大会～くまもと～基本構想

1 開催意義

熊本県は、九州のほぼ中央に位置し、雄大な阿蘇を含む「阿蘇くじゅう国立公園」、大小120の島々からなる「雲仙天草国立公園」の2つの国立公園を持ち、日本最大の干潟を有する有明海、内湾で東シナ海に湾口を開く八代海、対馬暖流の影響を強く受ける魚の宝庫天草灘の3つの海域に面しています。

このように特徴の異なる海域に面した本県では、それぞれの漁場の特性に応じ、様々な沿岸漁業や魚類、ノリ等の養殖業が盛んに営まれています。

しかし、近年は、漁場環境の変化や水産資源の減少、さらに、赤潮による甚大な漁業被害が発生するなど、本県水産業の置かれた状況は悪化しています。

こうした状況から、水産業の活力を取り戻すことが急務となっており、漁場環境の改善や水産資源の回復等に取り組み、将来にわたって水産業の健全な発展を目指しているところです。

また、かつて水俣病が発生した本県南部の水俣・芦北地域については、既に水俣湾の環境復元が完了し、国内の他の水域と変わらぬ清らかな海となっています。しかし、今でも公害被害地域というイメージは拭いきれていないことから、水俣の海が素晴らしい豊饒の海であることの発信も必要です。

このような中、本県において「全国豊かな海づくり大会」を開催することは、本県の特色ある水産業の魅力を全国に向かって発信するとともに、水俣の海の再生と熊本の豊かな海を広く理解していただくことにも繋がる絶好の機会になります。

2 基本理念

有明海、八代海、天草灘で営まれている本県の特色ある水産業の魅力と水俣の海の再生を情報発信するとともに、豊かな海を育む取組みを推進します。

3 基本方針

(1) 活力ある水産業づくり

有明海、八代海、天草灘で営まれている特色ある本県水産業を全国にアピールするとともに、漁場環境の保全や栽培漁業・資源管理型漁業の推進等に一層取り組み、水産業全体に活力を与える大会とします。

(2) 自然環境の保全と再生した水俣の海の情報発信

豊かな海の恵みに感謝するとともに、自然環境を守り育てていく気持ちを次世代につなげる大会とします。

また、水俣湾の環境復元に取り組んできた本県から、水俣の海の再生と熊本の豊かな海について全国に向けて情報発信します。

(3) くまもとの魅力発信

熊本には、雄大な「自然」、個性豊かで多彩な「歴史・文化」、豊かな「食」など、全国に誇れるものが豊富に存在します。これら「くまもとの魅力」を本大会を通じて全国に発信していきます。

(4) 熊本ならではの心のこもった大会

地元市町村、関係団体等との協働・連携や、既存施設の活用により、熊本ならではの心のこもったおもてなしのできる大会とします。

4 大会の概要

(1) 大会の名称 第33回全国豊かな海づくり大会～くまもと～

(2) 主催 豊かな海づくり大会推進委員会
第33回全国豊かな海づくり大会熊本県実行委員会

(3) 後援 農林水産省、環境省（予定）

(4) 開催時期 平成25年10月～11月の土曜・日曜日の2日間

(5) 開催場所 式典行事：熊本市
放流行事：水俣市、熊本市、天草市
歓迎レセプション：熊本市

(6) 大会参加者 招待者（約2千人）、その他プレイベント参加者、県内各地での関連行事参加者等

(7) 行事内容 ア 式典行事

資源管理や漁場保全などに功績のあった団体の表彰、最優秀作文の発表、漁業後継者の決意表明や大会決議などを行うほか、本県の特色ある伝統芸能を披露します。

イ 放流行事

次世代へ豊かな海を継承するため、本県の主要魚種等の稚魚を放流します。

ウ 海上歓迎行事

伝統漁法である「うたせ船」等による海上パレードを行います。

エ 歓迎レセプション

大会関係者を招待して歓迎レセプションを行い、本県の農林水産物を食材として豊富に使ったおもてなしをします。

オ 関連行事

県内外の参加者に本県の水産業や環境保全などの取組みを広く紹介するとともに、県内各地で県民参加型の放流行事を行い、県民の海づくりに対する意識を盛り上げます。

また、既存のイベントと連携して展開することで、本県の特産品や文化などの魅力を効果的にPRします。

(8) 大会テーマ 公募により決定

(9) 大会キャラクター くまモンを活用